

岐阜大学

応用生物科学部 生産環境科学課程
応用動物科学コース
動物飼育の総合科学

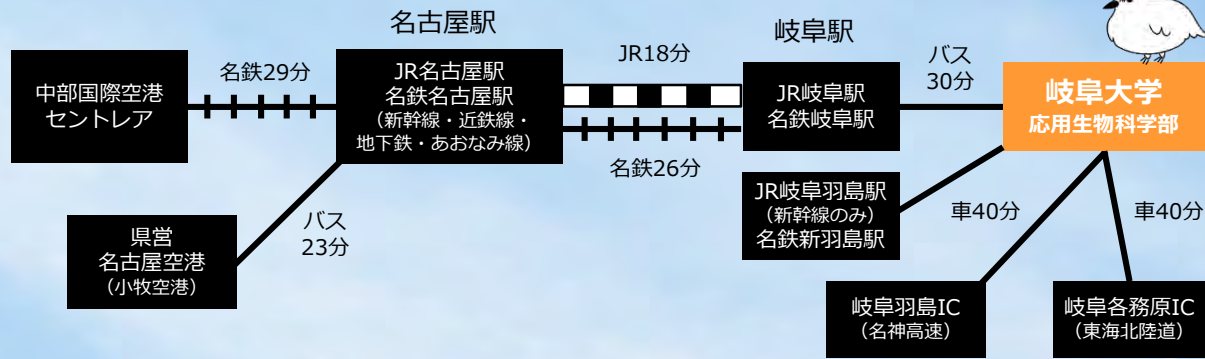


大学院 自然科学技術研究科
生物生産環境科学専攻
応用動物科学領域

応用動物科学コース GUIDE BOOK 第9号

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程 応用動物科学コース 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1
発行/2020年8月5日 監修/応用動物科学コース 編集/宇佐美ノノノ/橋田匠士 挿絵/小川由貴・前田佳紀 写真/動物コースの教員・学生
※本誌は『応用動物科学コース』をより深く知っていただくためのコースオリエントの冊子です。正式な情報は、必ず応用生物科学部の資料やWebでご確認ください。

アクセスよし！ 意外に近い名古屋駅 一人暮らしも不安なし



岐阜大学には
全国から動物好きが集まります



岐阜駅-名古屋駅間は30分以内と意外に近いんです。岐阜駅からのバス網も整備されています。
大学周辺や郊外には、イオンや大型ショッピングモールがいくつもあります。
大学周辺には多くのアパートがあり、スーパーやホームセンターもたくさんあるので、
自転車があれば、一人暮らしの生活に不便なことはありません。
高学年になれば車を持つ学生も増えてきます。
「岐阜=雪」は偏見。岐阜市内では年に数回しか降りません。数日でとけてしまいます。



どうぶつコースの授業

応用動物科学コースの授業科目は、
生命科学・生産科学・保全科学の3つの柱から構成され、
畜産学 **動物園学** などの動物飼育の総合科学の知識と技術を学びます。

教室での講義や実験室での実験に加えて、現場体験型の実習を重視しています。
 さらに実践編として、学外機関でのインターンシップ実習が行われます。

- ・生物生産科学概論
- ・動物生産栄養学
- ・動物育種学
- ・動物繁殖学
- ・動物発生工学
- ・動物管理学
- ・動物生産管理学
- ・応用動物行動学
- ・動物性食品化学
- ・動物行動管理学実験実習
- ・牧場実習



生産

PRODUCTION

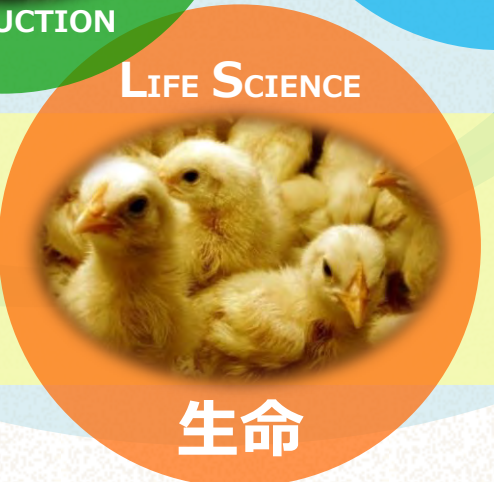
- ・生物化学
- ・動物発生学
- ・動物遺伝学
- ・動物生理学
- ・動物栄養学
- ・動物免疫学



保全

CONSERVATION

- ・動物園学
- ・動物園動物管理学
- ・生物多様性を支える森林と動物たち(現代環境学)
- ・野生動物管理学入門
- ・家庭動物学
- ・ビオトープ論
- ・動物園学実験実習
- ・野生生物フィールド実習



LIFE SCIENCE

生命

- ・動物系統進化学
- ・生物形態学
- ・動物機能形態学
- ・実験動物学
- ・情報処理演習
- ・情報処理実習

(注) 授業科目は、カリキュラムの更なる充実のため、一部変更されることもあります。
 ここに記した授業には、動物コースの専門科目のほか、生産環境科学課程の共通科目や関連する全学共通教育科目も含まれます。

どうぶつコースの授業内容(一部)

動物発生学

多細胞動物の体はたった1個の細胞、すなわち受精卵からスタートし、徐々に成体が構築されていく。しかも"カエルの子はカエル"にしかならない。この驚くべき発生現象の概要と制御メカニズムの理解をめざし、多様な動物群における初期発生過程について解説する。

動物遺伝学

近年、様々な動物のゲノムレベルでのDNA配列解析や、有用形質や疾患に関わる遺伝子の解明をめざす研究などが進む一方、野生動物の遺伝的多様性を保全するための学問も発展しつつある。本講義では、最新の動物遺伝学を学ぶのに必要な基礎的な知識をわかりやすく解説する。

動物管理学

飼育下の動物の管理、主に動物の生活の管理について、動物の飼育環境への適応やアニマルウェルフェアの観点から講述する。学習達成目標:動物の飼育方式・環境が動物へ与える影響について生物学的視点で捉える能力を身に付ける。

動物生産栄養学

動物体内における栄養素の代謝過程、特にエネルギー代謝について考えとともに、肉、乳、卵など生産に必要な栄養所要量の決定法とその内容および栄養素給原としての飼料の評価について講義する。

家庭動物学

近年、ペットフードの改良や動物医療の進歩によって家庭動物の寿命は著しく延び、社会における位置づけも変化してきた。こうした背景をふまえ、本講義では、イヌ・ネコ・トリやエキゾチックペット等の生理学・栄養学・遺伝学・管理学・疾病学・それらの飼育を取り巻く状況などについて総合的に講義する。

動物発生工学

動物発生工学とは何か。家畜の改良・繁殖を目的に始まった動物工学も、近年の著しい技術発展とともに、再生・移植医療や希少・絶滅動物の復活など幅広い分野でその応用が期待されている。本講義では、個々の動物工学技術について、その理論・方法・応用について解説する。

動物生理学

動物は、進化の過程で外界の環境とかわりあい種々の生理機能を獲得した。本講義では、動物各器官の組織機能の知見をもとに、神経系、筋肉、循環、呼吸、繁殖、感覚等の生理について解説する。

応用動物行動学

動物の行動に関する基礎知識や動物行動学の原理を紹介する。また、それらを用いて動物の飼育管理の問題を解決する方法を例示しながら、動物行動学の応用や動物の行動調査・研究方法について講述する。

動物育種学

動物の育種とは、単なる資源の状態から再生産が人為的に制御される資本へ、遺伝子組成を変化させることである。現在、家畜各種のゲノムが急速な勢いで解読されつつあり、在来家畜を含む動物遺伝資源の新たな活用が始まっている。本講義では、動物育種素材の検討と育種技術の方法論や遺伝性疾患をめぐめる問題について講述し、家畜育種の将来展望について考察する。

動物園学

動物園は、生きた動物、主に野生動物を収集・飼育し、種の保全を図りながら展示や研究等を行う博物館の一形態である。動物園は、レクリエーション、教育、種の保存、調査・研究がその中心的な役割とされ、また昨今注目される生物多様性の保全にも大きく貢献し、現代社会に必要な不可欠な場所になっている。動物園は単なるレジャーランドではない。動物園の存在意義と機能について、歴史的背景や法律などから概説する。

ビオトープ論

ビオトープの原義は、多様な生き物が相互に密接に関係しながら生きる生息空間のことである。我が国は経済成長によって生活水準が向上した一方で、自然環境の破壊が急速に進み、身近な動植物が絶滅の危機に瀕している。このような生物種を守るためには、生物自身を保護し、増やすことだけでなく、生物を含む生態系全体を健全に機能させることが重要である。地域に多様な生物群集の成育する場を保全・復元・創出し、ネットワーク化することによって多様な生態系の保全につなげるための一連の方策について講述する。

動物園動物管理学

動物園は、主に野生動物を収集・飼育し、種の保全を図りながら展示や研究等を行う博物館の一形態である。動物園を博物館としてみた場合、動物園動物(飼育下野生動物)は博物館資料と解されている。動物園動物の収集や飼育、種の保全等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また動物園の調査研究活動について理解することを通じて、動物園や動物園動物に関する基礎的能力を養う。

免許・資格 追加で所定の単位を修得することで、卒業時にこれらの免許や資格をとる人もいます

- 高等学校教諭一種(理科・農業)免許状 教員免許取得のための専門科目が用意されています。
- 博物館学芸員資格 博物館(展示、資料、教育、情報、経営等)に関する専門的な授業が用意されています。
- 家畜人工授精師及び家畜受精卵移植師 所定の単位を修めると試験の一部免除や実務経験の短縮が認められます。

動物コースの教員・学生が関わった書籍



大学院入試のための指定参考書です。ここから出題されます。

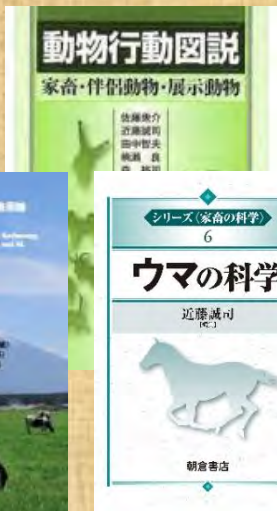
最新 畜産ハンドブック (講談社)



動物の飼育管理 (文永堂出版)



放牧地と放牧動物に関する国際用語 (John Wiley & Sons)



ウマの科学 (朝倉書店)



動物福祉の現在 (農林統計出版)

動物行動図説 (朝倉書店)

動物福祉の科学 (緑書房)

動物園学入門 (朝倉書店)

動物園動物管理学 (文永堂出版)

ZOOっといっしょ2 (中日新聞社)

キリンEAZA飼育管理ガイドライン (日本動物園水族館協会)

オウムインコ類マニュアル (学窓社)



どこに行ってしまったの? アジアのゾウたち (合同出版)



はっけん! ニホンイシガメ (緑書房)



180周年 (リリノア)



岐阜の自然考 (垂井日之出印刷所)



ぎふの淡水生物をまもる (岐阜大学動物繁殖学研究室)



どうぶつ
コースの
実習①

牧場実習 (3年生・夏)

附属施設の岐阜フィールド科学教育研究センター柳戸農場 (酪農) および美濃加茂農場 (肉牛生産) で実施します。各農場において乳牛および肉牛の子牛から成牛までの飼養管理技術および乾草作成などの飼料生産技術を実習します。また、動物の管理に必要な飼料設計、動物のハンドリング (取り扱い)、草地や土壌管理などの方法を学習します。

- ① 牧場の管理と経営
- ② 牛の日常管理
- ③ 牛の特殊管理
- ④ 飼料作物の生産と管理
- ⑤ 牛の管理と福祉

講義 で習ったら、実習 ですぐ実践!

附属農場の動物たち

附属岐阜フィールド科学教育研究センターに2つの農場があります。
柳戸農場 (岐阜大学構内) 美濃加茂農場 (美濃加茂市)



学内に
動物がいっぱい

牧場実習



附属岐阜フィールド科学教育研究センター美濃加茂農場
(4泊5日の宿泊実習)



▲ 牛のハンドリングとロープワークを学び、実際に牛を引いて動かしてみます。



▲ 動物の行動の原理を生かしてウシの誘導を行います。



▲ 牛の飼料給与を日々の管理で実践します。



▲ トラクターを動かし操作方法を習います。



▼ 夜はみんなでBBQ。牛を食することも実習です。



▲ 牧草地の土壌を採集し、土壌の質を診断。



▲ 牛の直腸検査と人工授精の方法を学びます。



どうぶつコースの実習



どうぶつ
コースの
実習②

KOBE  JI ZOO



動物園学実験実習・野生生物フィールド実習

動物園学実験実習（3年生・前期）

動物園は、野生動物を飼育展示するだけでなく、保全センターとして絶滅危惧動物の種の保存や調査研究が行われています。また、博物館として様々な教育研究用標本の作製とその活用が図られています。この実習では、動物園における野生動物の飼育や繁殖管理に必須となっている実験手技や、貴重な標本の作製法を習得し、動物園でそれらの技術がなぜ必要か、いかに活かされているのかについて学びます。

- ① 動物標本の作製と作製意義
- ② 動物の展示と展示解説、展示解説板の制作
- ③ 動物園動物の飼育管理のためのホルモン分析（実験）
- ④ 動物園動物の飼育管理法と施設見学
- ⑤ 動物園動物の研究例と施設見学

野生生物フィールド実習（3年生・前期）

野生生物の調査研究は、野外でのフィールド調査の他、採集した生物を飼育して行う研究や専門の飼育施設と連携して行われる研究もあります。この実習では、野生生物の研究フィールドを訪問し、実物の研究対象生物やその生息環境・飼育環境を理解し、現場での動物観察法や調査研究手法、研究材料の採取法等を学ぶと共に、実際にデータを収集し解析するまでの一連の知識と技術を学びます。

- ① 動物の行動観察法と記録法
- ② 動物園動物の行動観察（名古屋市東山動物園）
- ③ 野生動物の行動調査（京都嵐山モンキーパーク）
- ④ 哺乳動物の毛色表現型の観察による遺伝学的調査
- ⑤ 水生生物の形態と行動観察（竹島海岸、竹島水族館）
- ⑥ 外来水生生物の捕獲と実態調査（岐阜大学周辺）



▲ 名古屋市東山動物園で飼育下野生動物の行動を観察し、習った観察記録法を試してみます。



スタッフによるレクチャーとバックヤードツアー。野生動物の飼育繁殖の最前線を学びます。 ※見学先は年によって変わります。



▲ 京都嵐山で野生ニホンザルの行動を観察中。

▲ 愛知県蒲郡の竹島海岸で磯の生物を採集し、観察。その後、竹島水族館で海の生物の形態や行動をじっくり観察します。



▼ キリンなどの糞からホルモンを抽出、生理状態を調べています。

▲ 動物園で死亡したトラから骨標本を作製中。 ※希少種の場合は環境省への手続きを行って実施しています。



▲ 構内の河川にワナを仕掛け、外来生物の捕獲調査を行っています。

（注）実験実習の内容や実習地は、年によって変更になる場合があります。

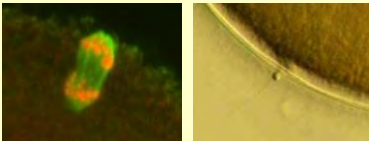
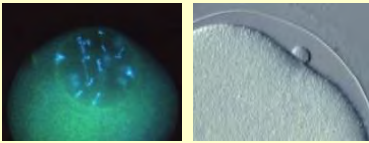
どうぶつ コースの 研究室

DNAから細胞 ▷▷▷ 動物の飼育から生産管理 ▷▷▷ 身近な生物から国際希少種の保全へ

動物コース研究室 <https://www1.gifu-u.ac.jp/~zoology/contents/lab/lab.html>

検索

動物発生細胞学



私たち多細胞動物の体は数多くの細胞から成り立っていますが、元をたどると受精卵という、たった1つの細胞に由来します。受精卵は究極の幹細胞といえます。なぜこんなことが可能なのでしょう？普通の細胞とどう違うのでしょうか？そして、どのようにして個体の「いのち」が始まるのでしょうか？**動物発生学研究室（動物発生細胞学）**では、主に棘皮動物を材料にして、「いのちの始まり」を科学します。棘皮動物の卵は比較的透明で、生きたまま卵内を探ることができます。また、同調よく発生するため、時間を追った詳しい観察が可能であるという利点もあります。特にヒトデ類は天然の卵成熟誘起ホルモンが知られている、数少ない動物の1つです。「卵成熟」とは、減数分裂の途中で一旦停止して成長した卵母細胞が、減数分裂を完了し、精子を受入れ可能な成熟卵へと変化する過程を指します。卵成熟はいわば「いのちの始まり」を担う卵細胞を完成させるための、最後の総仕上げのステップといえます。このホルモンの発見により、ヒトデ類は卵成熟、そしてその後の受精・卵割のしくみを探るのに最も適した材料の1つになっています。動物発生細胞学研究室では、これらの仕組みを明らかにしていくことで、動物の生殖メカニズムの理解を深め、ひいては動物の繁殖技術の発展に寄与していきたいと考えています。

教員：山本 謙也 准教授
理学博士
動物発生学研究室

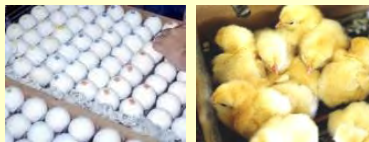
■現在の主な研究テーマ

- 1) 卵成熟/受精過程における細胞骨格系の役割の解明
- 2) 減数分裂進行と極体形成メカニズムの解明
- 3) 分裂溝誘導における、紡錘体と卵表層の相互作用の解明



担当授業科目：動物発生学、動物系統進化学、動物卵科学、動物発生学実験及び実験法、野生生物フィールド実習 など

比較生化学



比較生化学研究室は「内分泌・代謝学」と古くから呼ばれてきた学問分野を研究しています。この地方に養鶏産業が盛んなことを背景にして、ニワトリやその卵を主な研究対象にしていますが、ニワトリの産業動物的な側面にだけ焦点を当てたり、ニワトリをモデル動物として細胞内で起こる現象のメカニズムだけを明らかにするのではなく、内分泌・代謝の研究を通じて、鳥類という動物がその歴史の中でどのような「生きるための知恵」を生み出してきたのかを知ることを目標にしています。研究の手法は生化学的・分子生物学的方法が中心です。

また、近年における身近な自然と生物多様性の減少を背景に、私たちの関心は、古典的農業（たとえば、家禽・家畜の生産性の向上）から「自然環境と調和した、持続可能な生物資源の生産」「絶滅が危惧される動植物の保護管理」「身近な生き物を育む自然環境の保全」などへと大きく広がっています。比較生化学研究室は、これらの課題についても取り組んでいます。

■現在の主な研究テーマ

- 1) 鳥類の高血糖維持機構とその生物学的意義の解明
- 2) 鳥類の個体発生に伴う脳下垂体-甲状腺系の成立過程の解析
- 3) 圃場整備が水田生態系におよぼす影響、特に水田に生息するカエル類の種間交雑



教員：岩澤 淳 教授
博士（医学）
比較生化学研究室

担当授業科目：生物化学、動物卵科学、ピオトープ論、動物生理学実験及び実験法、野生生物フィールド実習 など

動物ゲノム多様性学



生態系などにおいて、生物多様性が重要であることは広く認識されています。このことは、農業生産分野においても例外ではありません。経済性が高く、現在の市場における需要に合致した少数の家畜や家禽の品種が大規模に飼育されるという傾向があり、このような品種の画一化が進む一方で、需要にそぐわない品種や経済的価値が低いとされる在来品種が見捨てられ、品種や系統の数の減少が世界的な規模で進んでいます。限られた少数の品種による遺伝的単一性は、将来の環境変化や疾病の流行等の際に深刻な影響を引き起こすことも考えられます。したがって、将来における育種素材として、多種多様な品種・系統を保存することが国際的にも重要視されています。このような現状から、**動物ゲノム多様性学研究室**では、動物遺伝資源の保存を行う際の基礎的な情報を得ることを目的として、我が国で保有されている家畜・家禽の品種や系統の遺伝的多様性と品種や系統間の遺伝的類縁関係をDNA多型マーカーを用いて、明らかにしています。現在は、家禽のニワトリを主な研究対象としています。また、飼育下にある希少動物の保護増殖に貢献することを目的とした遺伝学的解析も併せて実施しています。

教員：只野 亮 准教授
博士（農学）
動物ゲノム多様性学研究室

■現在の主な研究テーマ

- 1) 動物遺伝資源の遺伝的多様性の解明ならびに系統分類
- 2) 希少な在来家畜・家禽品種の保全にむけた遺伝学的解析
- 3) ウズラのDNA多型マーカーの開発と遺伝学的解析への応用



担当授業科目：動物育種学、情報処理実習、動物分子遺伝学実験及び実験法 など

岐阜大学応用生物科学部

生産環境科学課程

応用動物科学コース

応用植物科学コース

環境生態科学コース

応用生命科学課程

共同獣医学科

3年生の6月ごろに、入りたい研究室の希望調査を行い、3年生の夏ごろから各研究室に所属して、卒業研究に取り組みます。

動物発生学研究室（動物発生細胞学）

比較生化学研究室

動物ゲノム多様性学研究室

動物栄養学研究室（動物栄養科学）

動物栄養学研究室（動物生産栄養学）

動物管理学的研究室（動物福祉行動学）

動物生産管理学的研究室

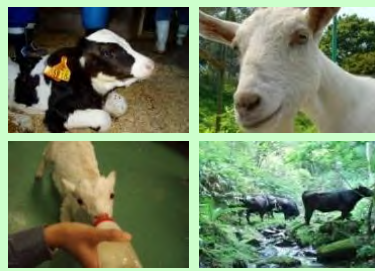
動物発生学研究室（動物発生工学）

動物遺伝学研究室（動物分子遺伝学）

動物繁殖学研究室（動物保全繁殖学）

野生動物医学研究室
（野生動物管理学的） ※大学院のみ

動物生産 栄養学



教員：八代田 真人 教授
博士（農学）
動物栄養学研究室

動物栄養学研究室（動物生産栄養学）は、ウシ、ヤギ、ヒツジ、ブタ、ニワトリといった家畜・家禽と呼ばれる動物を研究対象としています。研究の大きな目標は、家畜・家禽の消化、吸収、代謝と管理・飼養方法との関係を解明し、効率的な家畜・家禽生産技術を開発することにより、人類の食料生産に貢献することです。しかし、単に食料生産として効率よく家畜・家禽を飼育するだけではなく、「動物の福祉に配慮した」管理技術や飼養技術の研究を行い、その開発を目指しています。また、「自然環境と調和した持続可能な生産」を目標に、耕作放棄地や再造林放棄地などに草食家畜を放牧することにより、家畜生産と里山の保全との融和を図る研究と技術の開発にも取り組んでいます。

動物栄養学研究室（動物生産栄養学）は、動物を「個体」として捉えることを重要と考えています。研究の過程では、生化学的あるいは生理学的な分析をしますが、それらが最終的に個体あるいはその飼育環境にどのような影響を及ぼしているかを意識して研究を行っています。また、人類と積極的に関わりを持ってきた家畜・家禽の特徴を生かし、動物と密接に関わった教育と研究を行っています。

■現在の主な研究テーマ

- 1) 反芻家畜の放牧による荒廃農地の再生
- 2) 草食家畜の採食戦略と採食行動の解明
- 3) 飼料米の栄養評価と飼料原料としての利用
- 4) 反芻家畜における低質粗飼料の効率的利用



担当授業科目：動物生産栄養学，動物生産管理学，動物栄養学実験及び実験法，牧場実習 など

動物生産 管理学



教員：大塚 剛司 助教
博士（農学）
動物生産管理学研究室

すべての動物たちは、地球上で光や気温、気圧、化学物質、社会といったあらゆる外的環境から強く影響を受けています。環境に適応し生き抜くために、代謝や内分泌、繁殖、活動リズム、情動など、体の様々な生理機能を変化させます。家畜では、これが肉質や乳量などの生産性に深く影響します。良い環境では生産効率は上がり、劣悪な環境では生産効率も悪く、動物福祉の観点からも好ましくありません。そのため、家畜の生産性を高め、質の良い安全な畜産物を持続的に得るためには、より良い環境におき、心身ともに健康に維持する必要があります。動物生産管理学研究室では、このような環境生理学的な観点から、美濃加茂農場の肉牛を用いて生産性を高める研究を行います。牛は現在の飼育環境に対する批評を話してくれませんが、生理学的・行動学的に解析することで、牛が心地よいと感じているかを知ることは可能です。生理学的・行動学的に良い環境で飼育することで生産性向上に繋がります。

生体リズムにも着目して、遺伝子改変マウスを用いた分子生物学的な研究も行います。飼育環境や生体リズムの異常が生理や行動にどのような影響を与えるのか、その原因解明と共に、改善方法を探ります。マウスでの結果を畜産現場に生かし、飼育環境改善と生産性の向上に貢献したいと考えています。

■現在の主な研究テーマ：

- 1) 飼育環境が動物の生産性に与える影響について
- 2) 生体リズムと動物の生理機能に関する分子生物学的な研究
- 3) 遺伝子改変マウスを用いた行動発現のメカニズム解明および生体リズムに関する研究



担当授業科目：動物生理学，動物行動管理学実験実習，動物生理学実験及び実験法，牧場実習 など

動物福祉 行動学



教員：二宮 茂 准教授
博士（農学）
動物管理学研究室

飼育下の動物がどのような状態で生活（生存）しているかは、動物の飼育目的を達成できるかの鍵を握っています。例えば、餌が足りずに空腹な状態であれば動物は十分能力を発揮できるでしょうか？病気がちな動物はうまく成長するでしょうか？動物が良い状態で生活することを意識してしっかり管理すれば、動物の能力をうまく引き出し、最終的には我々人間の暮らしに役立てることが出来ます。動物が良い状態で生活していることを表す言葉が、アニマルウェルフェア（動物の福祉）です。アニマルウェルフェアは、人間が管理するすべての動物（家畜、ペット、実験動物、野生動物など）に関心を持たれ、それは年々高まっています。アニマルウェルフェアを管理したり、判断したりする際に重要なのは、動物を観察し、科学的・客観的に評価することです。動物管理学研究室では、その科学的・客観的な評価について研究を行っています。そして、それをもとにした動物の管理方法の改良を研究しています。さらに、動物行動学を基礎学問とし、動く生物である動物が、'行動する'ことの重要性について研究しています。動物の精神的健康性（快適・ストレス）を調査し、飼育環境の改善（飼育環境インリッチメント）へつなげる研究です。また、管理する上で問題となる動物の行動の発現メカニズム（原因）を解明し、その問題を解決する方法を見つける研究も行っています。

■現在の主な研究テーマ：

- 1) 動物の飼養管理とアニマルウェルフェア
- 2) 動物の行動発現メカニズムの解明



担当授業科目：動物管理学，応用動物行動学，動物行動管理学実験実習，牧場実習，野生動物フィールド実習 など

動物 栄養科学



教員：山本 朱美 教授
博士（学術）
動物栄養学研究室

家畜・家禽や魚などの動物性タンパク質源は、ヒトの健康を高めるうえでの重要な食糧資源として位置づけられ、その生産は重要な意味合いを持っています。動物栄養学研究室（動物栄養科学）では、生産物が兼ね備えておかねばならない安全性、経済性、機能性、美味しさを念頭におきながら、主に家禽（採卵鶏、ブロイラー、奥美濃古地鶏）やブタといった産業動物を用いて栄養学的な教育研究を進めています。近年、ニワトリやブタの飼料の主原料であるトウモロコシや大豆油粕の供給が世界的に不安定な状況にあり、種々の代替飼料原料や国内での飼料自給率を高める飼料原料が提案されています。

動物栄養学研究室（動物栄養科学）では、それらの飼料原料について、その効率的な利用法について研究するとともに、精度の高い消化試験法により栄養価の評価を行い、合理的な飼料設計に役立てることを目指しています。また、暑熱・低温ストレスと飼育ストレスの関係を栄養的に明らかにすることで、種々の飼料および飼育環境条件下での採卵鶏の生涯に渡る産卵成績を向上させる飼養法、肉用鶏の飼料要求率の改善と消費者に受け入れられる生産物を科学的に明らかにする研究をしています。

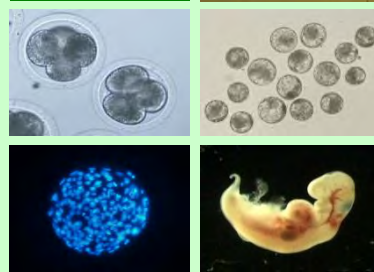
■現在の主な研究テーマ

- 1) 飼料原料の栄養価評価法の開発
- 2) 種々の飼料および飼育環境条件下での栄養素要求量や肉内の機能性の解明
- 3) 非澱粉性多糖類が栄養素の消化吸収と産卵成績に及ぼす影響の解明



担当授業科目：動物栄養学，動物栄養学実験及び実験法，牧場実習 など

動物 発生工学



教員：日巻 武裕 助教
博士（農学）
動物発生学研究室

近年、アニマルバイオテクノロジーの進展は目覚ましく、畜産だけでなく医学・薬学領域など様々な分野で利用されています。たとえば、体細胞クローン技術は優良個体の増産だけでなく、医療への応用や絶滅・絶滅危惧動物の再生・復活への活用が期待されます。また、卵子や精子から人為的に受精卵を作出する体外受精・顕微授精技術は、ヒトの不妊治療に応用されています。しかし、どの技術も決して安定した技術として確立されたわけではありません。動物発生学研究室（動物発生工学）では、ウシやブタなどの産業動物を対象に、アニマルバイオテクノロジーの基盤となる発生工学技術（体外受精・体細胞クローン・遺伝子改変など）を駆使して、配偶子形成や受精・発生・分化など初期発生機構の解明および高付加価値動物の効率的な生産システムの開発に関する研究を行っています。特に、薬剤添加など人為的処理による胚発生能の向上や体細胞クローン個体作出効率の改善に取り組んでいます。このような研究から生まれる新しい生産システムによって、野生動物保護や生物多様性保全にも貢献したいと考えています。生殖細胞を取りまく生命現象の神秘の一端に触れ、専門的な知識・技術だけでなく生命倫理観を養う教育と研究を目指しています。

■現在の主な研究テーマ

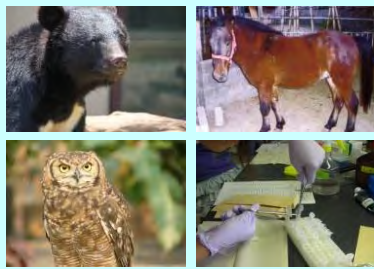
- 1) ウシおよびブタ卵子の体外成熟・受精・発生技術の高度化に関する研究
- 2) 卵巣採取個体の性成熟状況が受精卵の発生能に及ぼす影響
- 3) 体細胞クローン技術の高度化に関する研究



担当授業科目：動物発生工学，動物発生学実験及び実験法，動物生理学実験及び実験法，牧場実習 など



動物分子遺伝学



ゲノムとは、「ある生物を構成する遺伝情報全体」を意味します。ゲノムの本体であるDNAの配列を比較すると、同じ種に属する個体間でも少しずつ違いがあります。種が異なれば、違いはさらに大きくなります。**動物遺伝学研究室**は、個体間のゲノムの違いを調べることで、動物遺伝資源の生産や絶滅危惧動物の保全に貢献することを目指しています。種内や品種内の遺伝的な多様性を明らかにする研究は、家畜の起源の解明とその育種改良に役立つと同時に、絶滅が危惧される野生動物の保全や動物園等での希少種の繁殖にも応用できます。私たちはまた、動物の外見や行動などの違いが、どのような遺伝的な違いに由来するのかについて研究しています。特に、毛色に関連する遺伝子や、味覚や嗅覚に関連する遺伝子に着目しています。例えば、ある個体が特定の苦味を知覚できるかどうかは、たった一ヶ所のDNAの違いによって決まることがあります。味覚や嗅覚における個体間や種間の違いを、DNA配列の違いとして理解することで、家畜や伴侶動物の採食行動の理解とその改善、選抜・育種などに役立てることができると考えています。

教員： **松村 秀一** 教授
博士（理学）
動物遺伝学研究室

- 現在の主な研究テーマ
- 1) 動物における味覚・嗅覚受容体遺伝子に関する研究
 - 2) 動物における毛色に関連する遺伝子についての研究
 - 3) 野生動物・飼育下動物の遺伝的多様性の評価
 - 4) 漁業活動による魚の進化についての研究



担当授業科目： **動物遺伝学, 動物園動物管理学, 動物分子遺伝学実験及び実験法, 野生生物フィールド実習** など

動物保全繁殖学



動物繁殖学研究室では、動物園や水族館、環境省と共同で絶滅の危機にある陸生・海生哺乳類や鳥類を主な対象として、繁殖を生理学的・行動学的に追究します。また、ホルモン処理による発情排卵誘起など、希少種の人工繁殖の取り組みに協力しています。特に、糞や尿などの排泄物中の性ホルモン代謝物の定量技術の確立を重要な課題として取り組んでいます。この方法は動物に対してストレスを与えることなく、採材者も危険に曝されることなく、動物の繁殖生理状態を非侵襲的に捉えることができるため、動物園動物や野生動物の研究をする場合に非常に有効な手段になります。動物繁殖学研究室は、日本では初めてこの分野に本格的に挑戦し、様々な希少種の繁殖生理生態を明らかにしてきました。このほか、水族館等で飼育されている希少カメ類や野生の二ホンイシガメなどの繁殖生態や産卵生理、外来のカメ類の増殖実態などに関する研究を進めています。

動物繁殖学研究室では、多くの動物園や水族館と連携して、繁殖が困難な希少種や絶滅の危機に瀕した野生動物の繁殖生理生態を解明し、その種の保全に貢献したいと考えています。

教員： **楠田 哲士** 准教授
博士（農学）
動物繁殖学研究室

- 現在の主な研究テーマ
- 1) 絶滅危惧動物保全のための動物園動物の繁殖生理に関する研究
 - 2) 水族館鯨類の排泄物における性ホルモンの測定法に関する研究
 - 3) 爬虫類、特に淡水生カメ類の繁殖生態と産卵生理に関する研究



担当授業科目： **動物園学, 動物園動物管理学, 動物園学実験実習, 野生生物フィールド実習** など

野生動物管理学

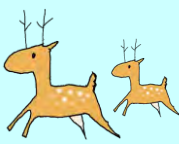


野生動物医学研究室では、野外に自由に生活する野生動物（シカ、イノシシ、カワウ、ツキノワグマ、アライグマ、マングースなど）を主な研究対象にします。急速に進む過疎・高齢化により、野生動物と人との緩衝地帯として機能してきた里山の荒廃が加速しました。増えすぎた在来種や外来種の対策への社会的なニーズも高まっています。今や、野生動物に関する諸問題は深く複雑化しているのです。このような時代にあって、感覚的・感情的な保護運動や経済性最優先の野生動物排除論ではありません。最も大切なことは科学の目を保ちながら「生物多様性の保全」を究極の目標にとらえ、得意とする分野や手法で活動することなのです。このような基本認識に立ち、私たちは、①保全生物学的研究の推進、②野生動物管理（ワイルドライフ・マネジメント）の現場で活躍できる人材の育成、③ワイルドライフ・マネジメントに関わる教育と普及啓発、を活動の柱としています。

野生動物医学研究室は、獣医学をベースとしていますが、他分野の方々へも門戸を広げています。野生動物管理分野の研究や就職などに、強い関心と熱意がある学生をお待ちしています。

教員： **鈴木 正嗣** 教授
博士（獣医学）
浅野 玄 准教授
博士（獣医学）
野生動物医学研究室

- 現在の主な研究テーマ
- 1) 在来種・外来種の繁殖学、個体群動態学、個体数管理法、被害対策
 - 2) 野生動物が関与する感染症（疥癬や住肉胞子虫など）
 - 3) 外来種の避妊ワクチンの開発



(注) 当研究室は共同獣医学科の研究室です。動物コースの学生は所属できませんが、大学院生（修士課程）を受けられます。希望者は、大学院自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻 応用動物科学領域を受験してください。

TOPIC 01

2つの動物拠点

1

飛騨牛繁殖研修センター



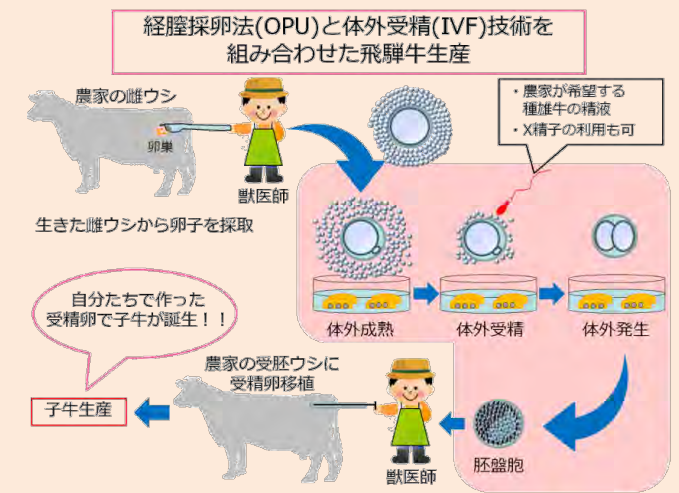
動物園生物学研究センター
Zoo Biology Research Center

2019年3月、応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター美濃加茂農場内に、JA全農岐阜による「飛騨牛繁殖研修センター」が完成しました。飛騨牛の繁殖農家の後継者不足解消と生産頭数を増やすため、岐阜大学と岐阜県、JA全農岐阜が連携して設置したもので、大学農場で繁殖事業に取り組むことは、全国で初めてです。

TOPIC 02

岐阜県が誇るブランド牛“飛騨牛”の振興 発生工学技術を活用

体外受精卵は、体内受精卵に比べ、まだまだ品質の改善が必要とされています。私たちは、体外であるが故の問題点を抽出し、一つ一つの問題点を科学的に検証しながら解決しています。ウシ体外受精卵生産技術の高度化を目指して、受胎しやすい高品質の受精卵を農家さまに提供すべく研究に取り組んでいます。



TOPIC 03

豚熱で被害を受けた養豚業界の復活にむけて ブタ体外受精卵生産技術の確立

近年、ブランド豚・銘柄豚の生産において人工授精や受精卵移植が注目されています。私たちの研究では、効率的なブタ体外受精卵生産技術の開発と高い受胎性が期待できる高品質な胚嚢胞の生産技術の開発に取り組んでいます。今後、胚のガラス化凍結や非外科的な受精卵移植に着手し、豚熱で疲弊した岐阜県内の養豚産業界の復興に貢献していきます。



ブタの体外受精卵



産子生産

学外機関との連携



- ### ■ 行政との連携
- 環境省 (ライチョウ)
 - 岐阜県庁 (飛騨牛, ライチョウ)
 - 岐阜市役所 (ヤマトサンショウウオ)
 - 美濃加茂市役所 (里山再生プロジェクト)

- ### ■ 動物園・水族館との学術協定
- 旭川市旭山動物園
 - 札幌市円山動物園
 - 那須どうぶつ王国
 - アクアワールド茨城県大洗水族館
 - 東京動物園協会 (上野動物園・多摩動物公園・井の頭自然文化園)
 - 横浜市繁殖センター
 - 豊橋総合動植物公園
 - 名古屋港水族館
 - 神戸どうぶつ王国
 - 姫路市立動物園
 - 姫路セントラルパーク
 - 福山市立動物園
 - 周南市徳山動物園
 - 福岡市動物園
 - 九十九島動植物園・水族館
 - 鹿児島市平川動物公園

学術交流や共同研究に関する協定を学外機関と結び、よりよい教育や研究の充実を図っています。

他にも、日本馬事協会やJRAなどの研究機関や他大学、名古屋市東山動物園や福井県立恐竜博物館などの全国の動物園・水族館・博物館とも連携して、様々な共同研究を進めています。3年生の夏には、多くの学生がインターンシップ実習や博物館実習を行っています。

淡水生物園

在来水生生物保全池
2011年完成

岐阜県は豊かな自然に恵まれ、岐阜市内にも豊かな自然環境が多く残されています。市内にも、多くの希少な淡水生物が生息していますが、環境の悪化や外来種の生息域拡大は他地域と同様に深刻な問題です。環境の悪化に伴い、岐阜地域でも絶滅の危機に瀕している生物は少なくありません。そこで、構内の一画に人工池(約200m²)を造成し、高校・水族館・市役所と協働して、岐阜の希少な淡水生物の保全を図ると共に、その生物学研究や野外調査を進めています。



ニホンイシガメ

レッドリスト
環境省版 (2012)
準絶滅危惧
岐阜県版 (2009)
準絶滅危惧
岐阜市版 (2015)
準絶滅危惧

岐阜市内でもニホンイシガメをみることは少なくなってきています。多くは外来生物のミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)とクサガメです。大学周辺で動物繁殖学研究室が行なった捕獲調査では、イシガメはわずかで、外来のアカミミガメとクサガメが90%以上を占めていました。大学地区のイシガメの保全繁殖を進め、復活を目指しています。また、動物遺伝学研究室では、アカミミガメとクサガメのDNAを分析することにより、その由来や繁殖状況を明らかにし、外来種の生息域拡大の防止に役立ちます。

ヤマトサンショウウオ

レッドリスト
環境省版 (2012)
絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県版 (2009)
絶滅危惧Ⅰ類
岐阜市版 (2015)
絶滅危惧Ⅰ類

ヤマトサンショウウオは、全長10センチほどの小型のサンショウウオです。分布東限にあたる岐阜県の生息地はわずかです。その生息環境も安心できる状況ではなく、絶滅の危機に直面しています。岐阜市の個体群は、条例でも保護されています。特に、岐阜県立岐阜高校や世界淡水魚園水族館アクア・トズギ、岐阜市役所環境保全課が連携して保全活動を展開し、その成果が実を結んでいます。私たちは、構内に生息域外保全池を造成し、2011年からこの活動に参加しています。

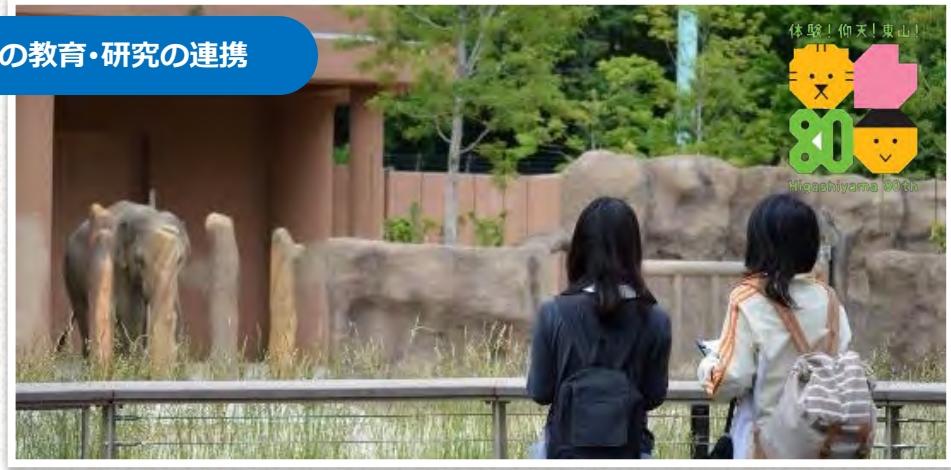
ナゴヤダルマガエル

レッドリスト
環境省版 (2012)
絶滅危惧ⅠB類
岐阜県版 (2009)
絶滅危惧Ⅱ類
岐阜市版 (2015)
絶滅危惧Ⅱ類

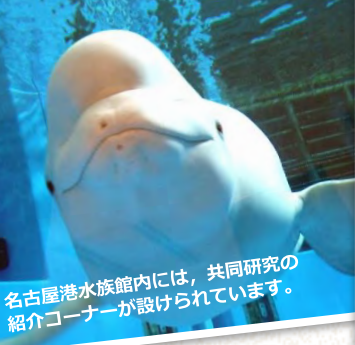
岐阜市内にも多く生息するナゴヤダルマガエルは、環境省レッドリストに絶滅危惧種として記載されています。外見にも似たトノサマガエルとは、従来、繁殖時期がずれていましたが、用水の共同管理や稲作の大規模化に伴って田んぼに水が入る時期が遅くなり、両種間の交雑が進んでいると考えられています。比較生化学研究室は、ミトコンドリアDNAの遺伝子解析を利用して、ナゴヤダルマガエルの交雑状況を判断する手法を開発し、見た目には分かりにくい両種の交雑状況の調査を行っています。

事例①：名古屋市東山動物園との教育・研究の連携

野生生物の絶滅が加速する中、現代の動物園は、野生生物の保全センターとして機能しています。応用生物科学部と東山動物園は、絶滅危惧動物の保全にむけて、2000年から繁殖研究を、2008年から行動研究を、また2010年からは環境エンリッチメントや動物の遺伝的多様性に関する研究を行っています。2012年からは授業での行動観察実習を開始しました。



事例②：名古屋港水族館との学術交流協定



2009年に学術交流協定を締結。野生動物の飼育・展示・種の保存における科学・技術の発展をめざし、鯨類・カメ類などの共同研究やインターンシップ実習が行なわれています

私も卒業生です 進路のページ参照

福井 前学部長・杉山 学部長・日登 副学長 他 (2016/7/28撮影)



淡水生物園では、2011年以降、ニホンイシガメが毎年産卵し、子ガメが見つかっています。



淡水生物園に放流したヤマトサンショウウオの幼生が成育し、成熟して繁殖し始めました。



ナゴヤダルマガエルとトノサマガエルの形態やDNAの違いを調べ、交雑状況が明らかになりつつあります。

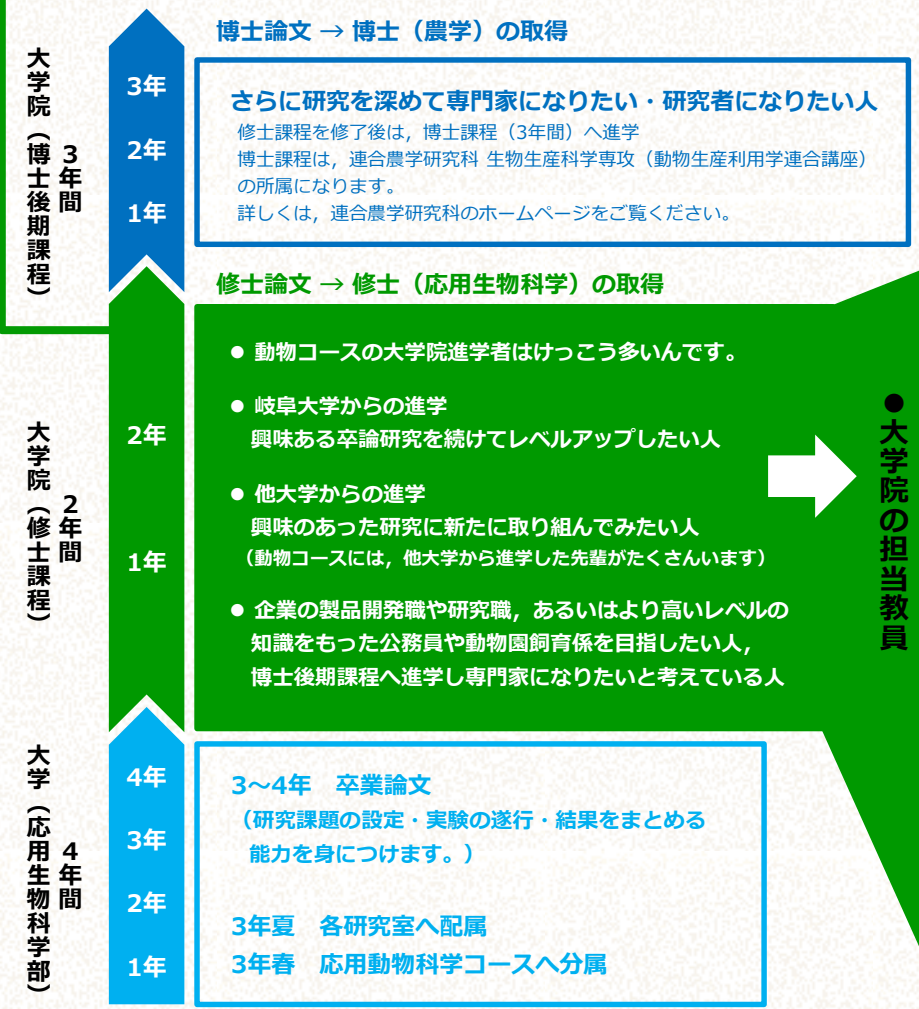
味覚受容体遺伝子の分析による
家畜の食物選択の評価

大学院
自然科学技術研究科
生物生産環境科学専攻
応用動物科学領域
(修士課程2年間)

自然科学技術研究科 大学院生 募集中!

- 他大学からの大学院進学も積極的に受け入れています
- 研究室の見学や進学相談などは随時受け付けています
- 過去の入試問題も公開されています(応用生物科学部学務係まで)
- 学部のとときの成績が優秀な人には、推薦入試制度あり(筆答試験免除)
- 奨学金制度や実習補助のアルバイト制度があり、経済面の助けになります

募集要項など詳細はこちらから <http://gnst.gifu-u.ac.jp/> **検索**



教員氏名	専門分野
浅野 玄 准教授 博士(獣医学)	野生動物管理学
岩澤 淳 教授 博士(医学)	比較生化学
大塚 剛司 助教 博士(農学)	動物生産管理学
楠田 哲士 准教授 博士(農学)	動物保全繁殖学
鈴木 正嗣 教授 博士(獣医学)	野生動物管理学
只野 亮 准教授 博士(農学)	動物ゲノム多様性学
二宮 茂 准教授 博士(農学)	動物福祉行動学
日巻 武裕 助教 博士(農学)	動物発生工学
松村 秀一 教授 博士(理学)	動物分子遺伝学
山本 朱美 教授 博士(学術)	動物栄養科学
八代田 真人 教授 博士(農学)	動物生産栄養学

大学院は、研究に思いっきり取り組める時間
思う存分、研究に専念してスキルアップだ!

● 大学院の担当教員



どうぶつ
標本

応用生物科学部の各研究室などには、非常に貴重な様々な標本類が多数存在します。たとえば、動物の骨標本・骨格標本・卵殻標本・剥製・液浸標本、昆虫標本、植物のさく葉標本や種子標本など。学部の教育・研究の資産です。

応用生物科学部が保有している生物系標本を保存・活用するための収蔵展示室を整備予定です。一部の標本は、図書館内に2019年6月に完成した「アーカイブ・コア」に収蔵・展示されています。

これらの貴重な標本類は、学部の専門教育や実習等に利用されます。応用生物科学部には、博物館学芸員の資格(任用資格)を取ることができるカリキュラムがあり、動物コースの学生も例年10~15名ほどがこの資格を取得しています。

貴重な動物の標本

動物コースは、様々な家畜・家禽や動物園動物・野生動物の標本を保有し、教材としての利活用や外部機関への貸し出しをおこなっています。



岐阜を代表する鳥
ニホンライチョウの
骨格・剥製・卵殻標本
も保管されています。
国の特別天然記念物で
絶滅危惧種です。



岐阜大学といえば、養鶏の研究といわれるほど
開学以来の長い歴史があります



今しかできない、ここでしかできない研究がある





進路 卒業生からの メッセージ

畜産・飼料・食品・製薬・動物薬・医療・研究・公務員・教員・動物園・水族館 などの分野で先輩たちが活躍！

有限会社 瑞穂農場

生産環境科学専攻 応用動物科学コース
平成27年度修了
林 那穂子 さん



畜産
企業

“牛の一番近くで働きたい。好きなことをとことん”

大学・大学院の6年間のほとんどを牛舎で過ごし、乳牛と共にたくさんのご経験をしました。そこで出会った牛と人、多くの経験をして、現場で働きたい、牛の一番近くで働きたいと思い、瑞穂農場に入社しました。

入社して4か月、主に乳牛の繁殖を担当しています。仕事の内容は、直腸検査による検診や繁殖の治療、人工授精などです。今後、受精卵移植や妊娠鑑定など繁殖の仕事を完璧に担えるようになることが目標です。繁殖は一頭一頭の運命を決めるとても責任のある仕事です。飼養頭数は多いですが、発情を見逃さないように、治療が遅れないように、一頭一頭しっかりと気にかけて繁殖をさせています。瑞穂農場は規模が大きいので、搾乳・工サ・繁殖・治療・分娩など仕事が細分化されています。そのため、どこで何が起きているのか、どのように動いているのかを把握することが難しいところもあります。自分以外の仕事や人を思いやり、助け合いながら、ひとつの酪農チームとして連携することの大切さを感じています。失敗や辛いこともあります。毎日大好きな牛たちと仕事ができて、毎日が学びと発見の連続で楽しく仕事をしています。

私は小さい頃から動物が好きでしたが、牛と出会ったのは大学です。初めはただ可愛いという気持ちで牛舎に通っていましたが、牛は愛玩動物ではなく、産業動物です。牛の命について考えると、その奥深さを感じます。牛にたくさんのご経験を学び、動物コースで、動物に関する知識を座学だけでなく実習を通して学び、先生や同級生、先輩後輩と様々な意見を言い合いながら、もっと牛が好きになり、ずっと関わっていたいと思いました。大学のうちにたくさんの人と関わって、多くの経験をして、色々な角度から物事を考えることで、今後の自分の成長や糧になります。また、社会に出てからはなかなかできない経験ができるのが大学だと思います。牛を運ぶトラックに乗せてもらって農家さんを回ったり、突然仔牛の育成農家さんにお邪魔して大学から出荷した仔牛に会わせてもらったり、一晩中分娩の見張りをしたり、牛と一緒に散歩してお昼寝したり。辛い経験もたくさんしましたが、大学で経験したことはずっと自分の中での大切な思い出になっています。

皆さんも動物コースでたくさんのご経験をして、様々な意見を聞いて考えて、好きなことをとことん追求して、充実した大学生活を過ごし、社会に出てからの生きる力にしてください。

神戸市立王子動物園（神戸市役所・飼育研究員）

生産環境科学課程 応用動物科学コース
平成29年度卒業
堀田 紗代 さん



動物園
公務員

“いろんなチャレンジが自分の力になる”

私は高校生の頃に動物に関する勉強をしたいと考えていました。その頃、王子動物園でのアジアゾウの繁殖への取り組みに岐阜大学が関わっていることを知り、進学を決めました。大学で私の就職に最も影響した授業は「動物園学」の授業です。動物園の役割を学び、子供の頃に遊びに行っていた動物園の違った魅力を感じました。研究室も、動物園との共同研究を行っているところに所属し、シロサイの繁殖研究に取り組みました。そして現在、進路選択のきっかけとなった王子動物園で飼育研究員として働くことができています。現在は主にジャイアントパンダの研究や飼育の補助をしています。研究を進める中で、大学の講義や研究室で学んだ知識や技術がとても役に立っています。一方で飼育やトレーニングの技術は、実践したり、先輩に教えてもらったりして初めて気付くこともたくさんあります。動物園での研究は飼育員や獣医師、ときには大学などの他機関との協力で成り立っています。自分と違った立場や視点から出た意見は参考になり、勉強になります。園内の動物たちのより良い飼育管理や繁殖につながるような研究を進めていきたいです。

動物の研究は、なかなか思うように進まないことも多々ありますが、失敗から学び、次に生かすことが大切だと考えています。みなさんも失敗をおそれず、いろいろな事にチャレンジしてください。そこから得られるものがあるはずです。そしてその経験が将来の目標が見えた時に自分の力になってくれていると思います。



操レディスホスピタル（胚培養士）



生産環境科学課程 応用動物科学コース 平成27年度卒業

葛山 晶 さん “自分にあった仕事に気づく。胚培養士に”

私は今、胚培養士として働いています。培養士は人の誕生に関わる仕事であり、とてもプレッシャーのかかる仕事です。今は一人前になるために日々勉強しているところです。

私は高校のときに生物部として活動してこの分野に興味を持ち、将来は生物系の仕事がしたいと考え、岐阜大学の応用生物科学部に入りました。生物系といっても分野は広く、初めは生物系の仕事がしたいということ以外は何も決まっていませんでした。そんな漠然とした入学当初でしたが、大学で実習や実験を行う中で、将来に活かせるような本格的な体験が多くでき、そのおかげで自分が興味を持てる分野を見つけることが出来ました。また勉強していくなかで、どのような就職先があるのかということも知ることが出来ました。胚培養士という仕事も先生の紹介で知った職業であり、自分の大学生活で培ったものを活かせる職業に就くことが出来ました。

大学生活の中では高校のときに思い描いていた将来と違ってくることがあります。漠然とやりたいと思っていた仕事が意外と自分にとってないことに気づくということも大いにあります。実践的な経験のおかげでそういったことにも気づくことができ、より自分にあった分野がわかるといいます。高校ではなかなか具体的な将来を考えるのは難しいですが、大学生活を通して自分には何がむいているかを見つけ出し、そして興味を持ったことについてとことん学ぶことで、将来のことが徐々に見えてくるのではないかと思います。



胚
培養士

製薬
研究

動物薬・製薬・医療・研究分野など（これまでの就職先）

三共ライフテック、大日本製薬、第一製薬、共立製薬、バイエル薬品、アステラス製薬、ゼネカ薬品、アスコ、富山化学工業、クラクソン・スミスクライン、岐阜県公衆衛生検査センター、日本遺伝子研究所、大正製薬、大塚製薬工場、大洋薬品、東和薬品、岐阜県生物産業技術研究所、加藤生物科学研究所、中北薬品、武田薬品工業、食品農医薬品安全性評価センター、新日本科学臨床薬理研究所、医学生物学研究所、岐阜県環境管理技術センター、動物病院、不妊治療施設（胚培養士）など

※ 応用動物科学コースでは、胚培養士の育成にも貢献しています。

テルモ・クリニカルサプライ株式会社 商品開発部

大学院自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻 応用動物科学領域 平成30年度修了

杉村 春佳 さん “人の命に携わる”



わたしは今、がん治療用のカテーテルを開発する仕事をしています。カテーテルを作るためにはヒトの体や使用される病気についてだけでなく、使用する素材や機械について知る必要もあります。会社では生物だけでなく、化学や工学系を専攻してきた方々と一緒に仕事をしており、日々新たな刺激を受けて仕事を行っています。

わたしは、幼い頃から動物が好きでもっと詳しく学びたいと思ったのがきっかけで岐阜大学に進学しました。実際に進学してみると動物コースへの配属前にはお米を作ったり、畑を耕したり、コースに配属されてからは動物の解剖をしたり、牧場実習をしたりと現場での実習が多く、今までの人生で初めてのことをたくさん経験できました。そう言った経験の中で、これまでに経験したことのないことにもっと挑戦してみたいと思う気持ちが強くなり、医療機器メーカーという大学の専門分野とは少し違う道に進みました。異なる分野ですが、大学時代に動物の解剖を行なったことが、ヒトの体について学ぶための基礎知識につながっていたり、修士論文の研究をする中で培ってきた物事の考え方や、実験をする際にスケジュール立てをして計画的に取り組んだりした経験が仕事をするうえで役立っています。

大学生活はあっという間に過ぎ去っていきます。将来の夢が決まっている方もそうでない方も、貪欲に、様々な経験や知識を吸収して肥やしにしてください。そうすることで将来の選択肢も広がると思います。

動物
飼料

■ 飼料分野（畜産用・ペット用）

（これまでの就職先）
日本農産工業、日本配合飼料、協同飼料、日本ペットフード、エヌビーエフジャパン、スマック、三昌物産、豊橋飼料 など

畜産
食品

■ 畜産・食品分野への過去の就職先（これまでの就職先）

伊藤ハム、キュービー、ヤマナカ、森永乳業、大東乳業、名古屋製酪、イセファーム、ゲン・コーポレーション、後藤野卵場、大山どり、クレフォートグループ、柿安本店、阪神畜産、石川養豚場、フリーデン、ウオフク、日本食品分析センター、日本製粉、丸信製粉、東洋発酵、ライフフーズ、フジパン、敷島製パン、ロピア、浜乙女、エスピー食品、コーミ、サンエー糖化、山田養蜂場、新海牧場、全国酪農協同組合連合会、厚生産業、日本食肉格付協会、ロマンチックデーリーファーム、林牧場、愛知県経済農業協同組合連合会、日本食研、伊那食品工業、JA など

名古屋港水族館（公益財団法人名古屋みなと振興財団）

生産環境科学課程 応用動物科学コース 平成24年度卒業

加古 智哉 さん “好きなことを追求する”

私は今、名古屋港水族館でシャチのトレーナーとして働いています。朝は調餌から始まり、日中はシャチのトレーニングや来館者への解説、動物の観察やプールの掃除などを行います。シャチは現在、日本では2つの水族館でしか見ることができません。そのシャチの持つ壮大な魅力や能力をお客様に伝えることが一番大事なことだと考えています。

私は高校生の頃から希少動物の保全に関わる仕事がしたいと考えていました。そして進路を選択するときに、岐阜大学の動物繁殖学研究室に興味を持ちました。研究室では主に動物園・水族館の希少動物の繁殖生理の研究を行っており、いろいろな動物の勉強をする機会が得られました。名古屋港水族館ともベルーガの行動観察やブタバナガメの性ホルモン測定で共同研究を行っていました。様々な動物園や水族館に行く機会にも恵まれ、そこで得た知識や出会いは就職をするにあたって大きく役立ちました。その中で動物園や水族館の持つ役割や意義を知り、そこで働きたいと思う気持ちが強くなっていきました。また、この応用動物科学コースでは、ミクロからマクロまで様々な視点から動物のことを勉強することができます。動物に関わる仕事をしていくにあたって、様々な視点で動物を見ることは非常に大事なことだと思います。

大学では自分の好きなことや興味を持ったことをひたすら追求していくことが、さらにそれに向かっていく力や機会を生み出していきました。また、自分によい出会いや機会が訪れたときに、それを自分のものにできるように準備しておくことが大切だと思います。これから進路を考えていく皆さんも、まずは自分が楽しいと思うことを、全力で頑張っていくてください。



水族館

■ 動物園・水族館・ふれあい牧場（これまでの就職先）

東京動物園協会多摩動物公園、静岡市立日本平動物園、京都市動物園、浜松市動物園、名古屋市東山動物園、豊橋総合動植物公園、日本モンキーセンター、いしかわ動物園、長野市城山動物園、仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園、福山市立動物園、みさき公園、小諸市動物園、愛媛県立とべ動物園、九十九島動物園、アドベンチャーワールド、名古屋港水族館、四国水族館、鷹山ファミリー牧場、伊賀の里モクモク手づくりファーム、乗馬クラブクレイン など

※ 自治体の動物園飼育係は、畜産職として採用されることが多いため、畜産学の勉強が必須です（もちろん動物園学も）。動物園就職は非常に狭き門ですが、応用動物科学コースは応援します。

どうぶつコースの進路（就職先）